

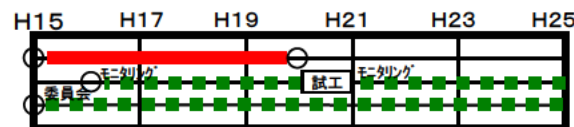
下加茂地区

●具体的な整備内容  
横断方向の河川形状の修復方法等について検討する。

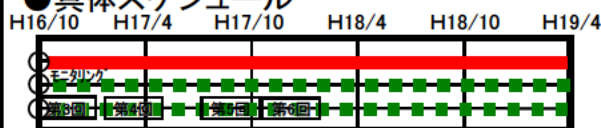
●事業の数量・諸元等  
延長約800m (猪名川)

●事業費

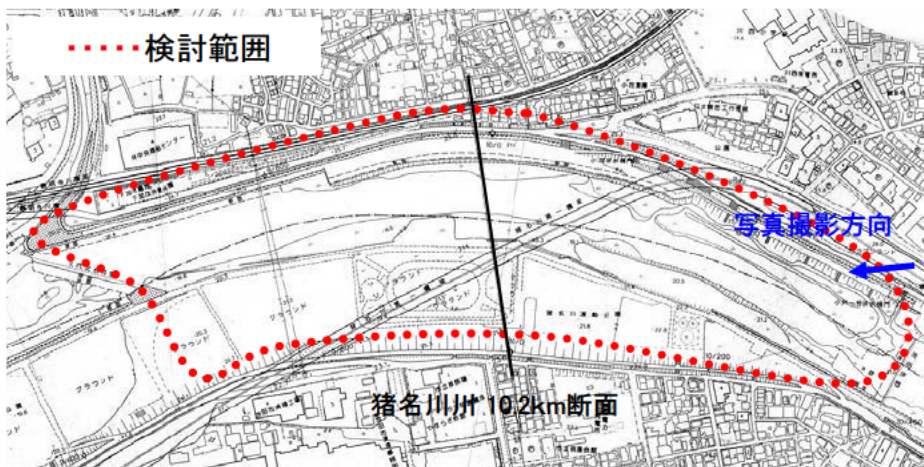
●実施スケジュール  
■ 検討  
■ 試行・モニタリング  
■ 委員会



●具体スケジュール



●平面図



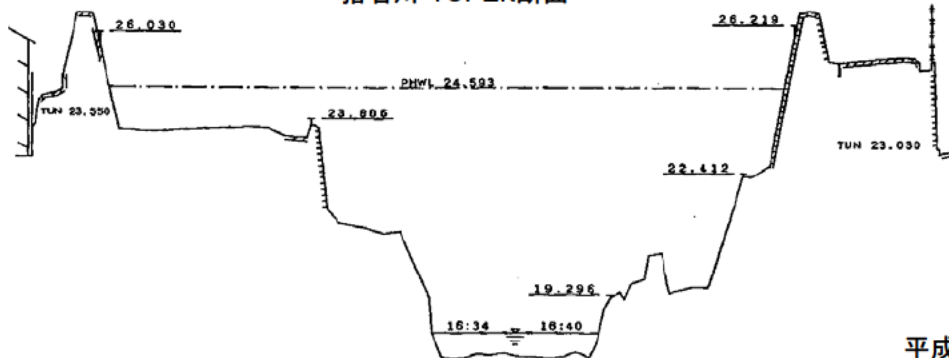
猪名川現況平面図(平成15年2月)

●横断面図



平成17年7月撮影

猪名川 10.2km断面



平成16年度定期横断測量

### 整備効果

水域から陸域まで緩やかな水陸移行帯等が復元するとともに、中小洪水による水位変動の増大や冠水域の拡大、また既存ダム運用検討による水位変動や攪乱の増大と合わせ、自然の営力『川が川をつくる』ことの出来る良好な水辺環境の再生が期待できる。

### 提案理由

かつては水域から陸域まで緩やかな水陸移行帯等が形成されていたが、河川整備による堤防や高水敷、低水路等の設置により河川の横断形状の連続性が分断され、親水性や生物環境が悪化した。

### 調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

### 委員会等からの意見

- ・ 堰、土砂問題を猪名川の物理環境として評価し、目標設定に結びつける必要がある。
- ・ 猪名川の景観をどうするのかという観点も目標を設定するうえで入れるべき。
- ・ 自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない。

(注: 上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

### 進捗状況

【自然環境委員会】

- ・ 横断形状修復検討の前段として環境目標（ランドデザイン）を検討中

### 進捗状況



第5回委員会の様子



第6回委員会の様子

下河原地区

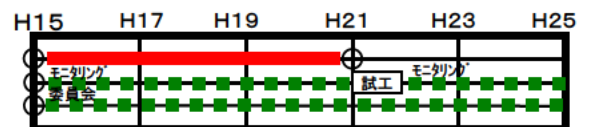
●具体的な整備内容

横断方向の河川形状の修復方法等について検討する。

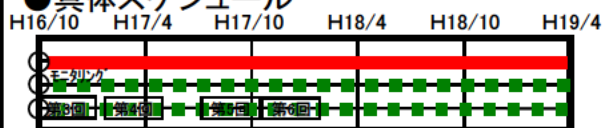
●事業費

●実施スケジュール

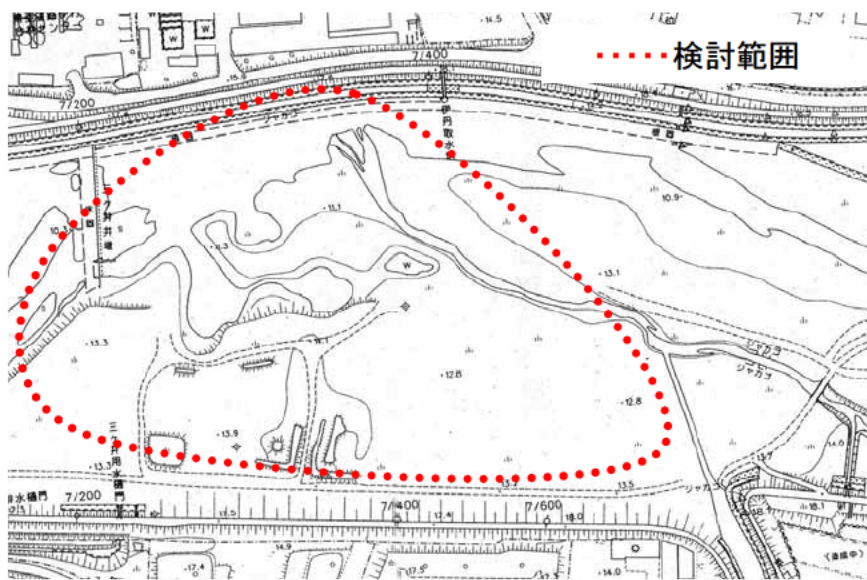
■ 検討  
■ 試行・モニタリング  
■ 委員会



●具体スケジュール



●平面図



猪名川現況平面図(平成15年2月)

●横断図

→ 住民参加によるワンドの生きもの観察



整備前(平成11年)



← 住民参加によるワンド清掃

整備後(平成14年)



→ 住民参加によるワンド紹介のパンフレットを作成



### 整備効果

生物及び生息・生育環境等のモニタリングを行い、その結果を踏まえ生物環境の改善を検討しながら改良を繰り返すことで、本来の水辺環境への再生が期待される。また、今後の河川整備における生物の生息・生育環境の保全・再生の評価のための基礎資料とすることができる。

### 提案理由

当該地は河川工事における土砂の仮置き場であったが、住民参加のもとワンドや野草園造りなど自然環境の復元を行い、その後も住民による自然観察や生物調査を続けるなど、地域住民と一体となって環境改善に取り組んでいる地域であり、自然環境の再生が大いに期待される。

### 調整経緯



平成17年 9月 7日 第5回猪名川自然環境委員会開催

平成17年12月14日 第6回猪名川自然環境委員会開催

### 委員会等からの意見

- ・ 造園的なワンドにならないようにしていくべきである。(第28回猪名川部会)
- ・ 堰、土砂問題を猪名川の物理環境として評価し、目標設定に結びつける必要がある。
- ・ 猪名川の景観をどうするのかという観点も目標を設定するうえで入れるべき。
- ・ 自然環境の目標設定は、個体種の保全・再生ではなく、どんな生態系を回復させるべきかという観点で考えなければならない。

(注: 上記は環境委員会審議の中における関連意見を抜粋したものである)

### 進捗状況

#### 【自然環境委員会】

- ・ 横断形状修復検討の前段として環境目標(ランドデザイン)を検討中
- ・ 過去から現在までの評価及び課題の整理

#### 【住民参加のワークショップでの取り組み】

- ・ 水辺環境を再生するためのワンド形状の検討
- ・ ホテイアオイの除去、ワンド周辺のゴミ拾い等
- ・ ワンドを活用した環境学習
- ・ ワンド環境を紹介したパンフレットの作成

### 進捗状況



ワンド紹介パンフレット



第6回委員会の様子